

高い技術で日本の食をサポート 製造業の強みは農業にも生かされている

モノづくり王国・産業中枢域といわれる一方、農業生産も盛んな東海地方だが、少子高齢化、都市化に加えTPP加盟で激変も予想される。課題山積、厳しい環境にある当地区の農林水産業の現況や将来について田辺義貴東海農政局長に聞いた。（聞き手／中部財界フォーラム社塚本隆代表取締役）

——東海農政局管内の情勢・特色について。

田辺 産業中枢域と言われる管内ですが、農業も盛んです。トッポの北海道の農業産出額は一兆円で、次いで千葉、茨城などが四〇〇〇億円。三番手グループが熊本、宮崎、愛知県です。昨年、愛知県は産出額では第七位。キャベツや花は日本一。トマトや酪農など多くの品目の生産額は全国でも上位。食品製造出荷額では北海

道に次いで二番目と、規模の大きさの割に知らない人が多いのではないのでしょうか。

今年初めに、地域の特産品を紹介するスマートフォンアプリ「東海まるごと！ 特産品ナビ」を開発しました。地域の農業を応援するための情報発信として、これは全国の農政局で唯一の取り組みです。

——農業従事者の高齢化、鳥獣被害対策については？

田辺 農業従事者は平均六十六歳と高齢化が進み、従事者そのものも減少しています。新規就農者を増やすために、若い人が就農する場合、最大で年間一五〇万円を保証する制度で支援しており、就農者は増加の傾向にあります。

鳥獣被害対策としては、捕獲するだけでなく、侵入防止の柵などを作る取り組みも行っています。捕獲後には、ジビエとして食材に活用するなど各地で取り組んでおり、加工施設を建設する際には国の支援も活用してもらい、捕獲し、食材活用が進み、「道の駅」などでの展開が広がれば、観光目的にもなるでしょう。

——農業への企業参入や六次産

業化、都市との交流は。

田辺 全く業態の違う企業からの参入が目立ちます。また、直接参入ではありませんが、デンソーが豊橋で温室の温度や二酸化炭素コントロールなどを行う設備を開発して農業に生かす動きもみられます。

なお当地区は食品を製造する機械メーカーが多くあります。たとえば広島特産の「もみじまんじゅう」は全国的に知られていますが、実は愛知県の機械メーカーの製造マシンで大量生産が可能になったことで全国に知られることになりました。加工食品を真空パック化する機械もこの地方のメーカーが開発しており、食やライフスタイ